

InstallAnywhere 2012/InstallAnywhere 2012 SP1

リリース ノート

初回リリース 2012 年 10 月 ; SP1 リリース 2013 年 1 月

はじめに

InstallAnywhere 2012 は、異なる環境 (物理的 / 仮想 / クラウド) ごとに、整合性のある洗練されたインストール体験を約束する業界最先端のマルチプラットフォーム開発ソリューションです。

InstallAnywhere 2012 には、Windows 8、Windows Server 2012 などの最新オペレーティング システムをサポートする業界最先端のマルチプラットフォーム インストーラーを作成できる機能が搭載されています。また、オープン仮想化フォーマット (OVF) 1.1 規格を使って、ソフトウェアを、AMI (Amazon Machine Image) または VMware ハイパーバイザー用のエンタープライズ対応の仮想イメージとしてリリースできる新しい機能も追加されました。InstallAnywhere 2012 では、同一の InstallAnywhere プロジェクトから、物理的および仮想用の両方の出力物の作成が可能であるため、既存および新規製品のどちらも、仮想およびクラウド インフラストラクチャを適用できます。物理的環境、クラウド環境、およびエンタープライズ仮想マシン ホスト環境への配置プロセスは、InstallAnywhere 2012 で提供されているインストール ソリューションによって、すべて自動的に解決されます。

InstallAnywhere 2012 Service Pack 1 (SP1) では、Mac OS X 10.8 (Mountain Lion)、SUSE Linux 12.2、Ubuntu 12.10、IBM i 7.1、Red Hat Enterprise Linux 6.3、および Fedora 17 が新たにサポートされています。

新機能

このセクションは、次のバージョンの InstallAnywhere で新たに追加された機能の一覧です。

- [InstallAnywhere 2012 SP1](#)
- [InstallAnywhere 2012](#)

InstallAnywhere 2012 SP1

InstallAnywhere 2012 SP1 には、次の新しい機能が搭載されています。

- [新しいプラットフォームのサポート](#)
- [Mountain Lion Gatekeeper のための Mac OS X 用インストーラー コード署名機能](#)
- [VMware 仮想アプライアンスを指定のサーバーに配置する機能](#)

新しいプラットフォームのサポート

InstallAnywhere 2012 SP1 では、Mac OS X 10.8 (Mountain Lion)、SUSE Linux 12.2、Ubuntu 12.10、IBM i 7.1、Red Hat Enterprise Linux 6.3、および Fedora 17 を含む最新および最新バージョンのプラットフォームがサポートされています。

Mountain Lion Gatekeeper のための Mac OS X 用インストーラー コード署名機能

InstallAnywhere では今回より、ビルド時に、開発者 ID インストーラー証明書を使って Mac OS X 用インストーラーに署名を付加することができるようになりました。このタイプの証明書を使ってインストーラーに署名を行うと、Mac App Store 以外の場所にも配信が可能になります。エンドユーザーがインストーラーをダウンロードして実行するとき、Gatekeeper によってインストーラーの実行が許可されます。

エンドユーザーが、Gatekeeper が有効になっている Mac OS X Mountain Lion システムで、署名なしのインストーラーをダウンロードして起動した場合、アートが表示され、インストーラーの実行がブロックされます。

Mac OS X インストーラーのコード署名を構成する場合、[プロジェクト > プラットフォーム] サブタスクの [Mac OS X] タブにある新しい [コード署名] 領域を使用します。この領域で、ビルド時に生成されたインストーラーにコード署名をするかどうかを指定できます。また、証明書ファイルとパスワードを指定することもできます。

VMware 仮想アプライアンスを指定のサーバーに配置する機能

InstallAnywhere で、作成した VMware 仮想アプライアンスに使用する配置サーバーを指定することでできるようになりました。配置サーバーとして指定された特定サーバーが存在し、アプライアンスが自動配置されるように設定されている場合、その仮想アプライアンスはビルド時に自動的に指定されたマシン配置されます。

専用の配置サーバーを指定するには、[アプライアンスのビルド] タブを開き、[アプリケーションの構成] タブをクリックし、新しく追加された [シンの資格情報] 領域で設定を構成します。

InstallAnywhere 2012

InstallAnywhere 2012 には、次の新しい機能が搭載されています。

- [Windows 8 / Windows Server 2012 のサポート](#)
- [追加のプラットフォーム サポート](#)

- [仮想アプライアンスを作成するための新しいクラウド パック サポート](#)

Windows 8 / Windows Server 2012 のサポート

InstallAnywhere 2012 では、Windows 8 と Windows Server 2012 オペレーティング システムがサポートされています。

- InstallAnywhere 2012 オーサリング環境は、Windows 8 デスクトップと Windows 2012 Server オペレーティング システムで実行できます。
- InstallAnywhere 2012 で作成されたインストーラー、および InstallAnywhere 2012 を使って再ビルドされた既存のインストーラーは、Windows 8 デスクトップと Windows 2012 Server オペレーティング システムで問題なく実行されます。

また、InstallAnywhere 2012 では、[プラットフォームのチェック] 規則を使って、アクション、パネル、またはコンソールが Windows 8 / Windows Server 2012 プラットフォームでのみ実行されるように指定できます。

追加のプラットフォーム サポート

InstallAnywhere 2012 では、Mac OS X 10.7 (Lion)、SUSE Linux 11.3、Ubuntu 12.04、Solaris 11 Sparc、HP-UX 11i、AIX 7.1、IBM i5/OS、Z/OS、RHEL 6、および Fedora 16 を含む最新および最新バージョンのプラットフォームがサポートされています。

仮想アプライアンスを作成するための新しいクラウド パック サポート

InstallAnywhere 2012 with Cloud Pack では、既存の InstallAnywhere プロジェクトから、Amazon EC2 Cloud 対応イメージ、および、VMware vSphere 5 エンタープライズ対応の仮想アプライアンスを作成できる機能がサポートされています。InstallAnywhere 2012 のアドバンスド デザイナー インターフェイスには、仮想アプライアンスを構成できる新しいメジャー タスク [アプライアンスのビルド] が追加されました。

仮想アプライアンスとは、“Just Enough Operating System” (JeOS) と呼ばれる最適化されたオペレーティング システムと共にパッケージされた、すぐに実行可能なビルドおよび構成済みアプリケーション ソリューションを意味します。

InstallAnywhere 2012 には、次の機能を含む仮想アプライアンスのサポートが搭載されています：

- [Amazon EC2 ベースのアプライアンスのサポート](#)
- [VMware vSphere ベースのアプライアンスのサポート](#)
- [VM テンプレートの作成機能のサポート](#)
- [仮想アプライアンスの自動配置のサポート](#)
- [リポジトリ ベースのアプライアンスの作成のサポート \(高度 \)](#)
- [ハードウェア要件の指定機能](#)
- [アプライアンスを作成するためのオペレーティング システム パッケージをインストールする](#)
- [カスタム スクリプトのサポート](#)

- [資格情報ストアのサポート](#)

Amazon EC2 ベースのアプライアンスのサポート

InstallAnywhere 2012 では、Amazon EC2 パブリック クラウド インフラストラクチャ用の仮想アプライアンスを作成することができます。Amazon EC2 パブリック クラウド用の仮想アプライアンスでは、次のプラットフォームがサポートされています：

- Ubuntu 11.10 (Oneiric Ocelot) 32 ビット
- Ubuntu 12.04 (Precise Pangolin) 32 ビット

Amazon Elastic Block Store (EBS) のサポート

Amazon EC2 インスタンスを起動すると、ルート デバイス ボリュームに、インスタンスを起動するために使用されるイメージが含まれています。InstallAnywhere 2012 を使って、Amazon EC2 仮想アプライアンスを作成するとき、ルート デバイス タイプの仮想アプライアンスを Elastic Block Store Backed として定義するオプションを利用できます。このオプションを選択すると、仮想アプライアンスが、同じ Availability Zone で実行されているすべてインスタンスに付加できる信頼性の高いストレージ ボリューム上に格納されます。インスタンスに付加された EBS ボリュームは、インスタンスの存続期間も、独立して保存されるため、データが頻繁に変更になる環境および長期の保存が必要な環境で推奨されます。

また、一時ブロック レベルストレージ (“インスタンス ストア” ボリュームとも呼ばれます) を意味する [EC2 Instance Store Backed] オプションも提供されています。インスタンス ストアは、特定のインスタンス専用で、そこでのデータは、関連する EC 2 インスタンスの存続期間のみ保存されます。このようなインスタンス ストア ボリューム上のデータは、インスタンスが使用中止、失敗、または終了になったと同時にわれ、復元することはできません。Instance-Store-Backed インスタンスは、情報またはコンテンツの一時ストレージとして最適です。

配置リージョンのサポート

InstallAnywhere 2012 では、次のリージョンから Amazon Machine Image (AMI) をアップロードして、実行できます；

- 米国 東部 (北バージニア) リージョン
- 米国 西部 (北カリフォルニア) リージョン
- 米国 西部 (オレゴン) リージョン
- 南アメリカ (サンパウロ) リージョン
- EU (アイルランド) リージョン
- アジア太平洋 (東京) リージョン
- アジア太平洋 (シンガポール) リージョン

AMI を顧客の所在地に近いリージョンに配置することで、応答時間が短くなり、コストの削減につながります。

VMware vSphere ベースのアプライアンスのサポート

InstallAnywhere 2012 では、標準インストーラーと Amazon EC2 ベースのアプライアンスを作成するためのプロジェクトから、VMware vSphere 5 プライベート クラウド インフラストラクチャ用のアプライアンスも作成できます。VMware vSphere 5 プライベート クラウド用の仮想アプライアンスでは、次のプラットフォームがサポートされています：

- Ubuntu 11.10 (Oneiric Ocelot) 32 ビット
- Ubuntu 12.04 (Precise Pangolin) 32 ビット
- CentOS 6.2 と 6.3 32 ビット

OVF 1.1 関連のアプライアンスのサポート

InstallAnywhere 2012 では、VMware vSphere 用に、OVF (Open Virtualization Format) 1.1 の仮想アプライアンスがビルドされます。また、VMware vSphere 仮想アプライアンスを OVA フォーマットでビルドするオプションも提供されています。OVF 1.1 フォーマットの出力は、仮想アプライアンスの配布がより簡単になる tar ファイルを使用することによって可能です。

VM テンプレートの作成機能のサポート

仮想アプライアンスを作成するとき、VM テンプレートと、オペレーティング システムおよび必須のオペレーティング システム パッケージを含む成の仮想マシン ディスクの取得が必要になります。

InstallAnywhere 2012 では、InstallAnywhere VM テンプレートの作成ウィザード、または、コマンドラインを使って、独自の VM テンプレートを作成することができます。

VM テンプレートの取得には、InstallAnywhere 2012 のインストール時に、ビルド済みの VM テンプレートをダウンロードする方法と、フレクセラ・ソフトウェア Web サイトの [[InstallAnywhere: ファイルとユーティリティ](#)] ページからダウンロードする方法があります。

仮想アプライアンスの自動配置のサポート

InstallAnywhere 2012 では、ビルトイン自動配置機能を使って、能率的に仮想アプライアンスのテストを行うことができます。ビルトイン自動配置機能を使うと、作成したアプライアンスを、ビルドの一部として、対応するハイパーバイザーに簡単に配置することができます。以下は、自動配置オプションを選択したときに発生する動作です：

- [VMware vSphere](#) — 仮想アプライアンスは自動的に、指定された VMware vCenter/vSphere サーバーに配置されます。
- [Amazon EC2](#) — イメージは自動的に Amazon EC2 インフラストラクチャに配置されます。

リポジトリ ベースのアプライアンスの作成のサポート (高度)

ファイアウォールによって常に保護する必要が開発用ビルド マシン上でアプライアンスのビルドするとき、オペレーティング システム パッケージをインストールするためにインターネットの接続が必要であるというセキュリティ上の問題が発生することがあります。InstallShield 2012 では、この問題に対処するために、アプライアンスの作成時に、ローカル OS リポジトリを使って、ビルド マシン上でのインターネットの接続を回避できるようになっています。

ハードウェア要件の指定機能

InstallAnywhere 2012 で仮想アプライアンスを構成するとき、Amazon EC2 と VMware vSphere 仮想アプライアンスの両方に対して、ハードウェア要件を指定できます。

Amazon EC2 のハードウェア要件を指定する

Amazon EC2 のイメージの場合、次のいずれかのインスタンス タイプを指定して、様々なコンピューティング ニーズに対応することができます：

- スモール インスタンス
- 高 CPU ミディアム インスタンス
- ミディアム インスタンス

各インスタンスは、必要とされるコンピュート機能を期待通りに提供します。その費用はインスタンスが利用される時間単位で課金されます。

VMware vSphere 5 のハードウェア要件を指定する

VMware vSphere 5 のターゲット ハイパーバイザーが設定されている仮想アプライアンスの場合、仮想 CPU の数、仮想 CDROM の数、仮想イーサネット アダプターの数、デフォルトの仮想ハードディスクのサイズ、デフォルトの仮想 RAM サイズなどの、基本的なハードウェア要件を指定できます。

InstallAnywhere 2012 では、ハードドライブおよび CDROM に対して、それぞれ SCSI コントローラーや IDE コントローラーなど、さまざまなコントローラーが作成されます。

アプライアンスを作成するためのオペレーティング システム パッケージをインストールする

InstallAnywhere によって作成された VM テンプレートには、SSH、wget、perl、openssl など、いくつかのオペレーティング システム システムが含まれています。これらのパッケージは、仮想アプライアンスの作成プロセスで使用されます。

ただし、正規のオペレーティング システムなど、特定の仮想アプライアンスに異なるオペレーティング システム パッケージを追加でインストールする必要がある場合、[アプライアンスのビルド] タスクの [VM の構成] タブにある [OS パッケージ] サブタブで、それらの仮想アプライアンスを選択するだけで、そららが仮想アプライアンスの作成時にインストールされます。

カスタム スクリプトのサポート

InstallAnywhere 2012 によってビルドされた仮想アプライアンスは、ライフサイクルの特定の段階でスクリプトを自動的に呼び出すことができます。オションで、カスタム シェル スクリプトは、仮想アプライアンスの [初回ブート]、[初回ログイン]、[初回以降のブート]、[初回以降のブート] で行えます。

たとえば、仮想アプライアンスで、Apach Web サーバーをインストールして、それを、アプライアンスが起動するたびに起動する必要がある場合、起動時に Apache Web サーバーを起動するスモール シェル スクリプトを定義することができます。

InstallAnywhere では、プロジェクト ファイルから仮想アプライアンスをビルドするとき用に資格情報は保存されませんが、資格情報自体は、「資格情報ストア」が使われて安全に保存されます。

- **暗号化** — 資格情報ストアは暗号化されます。
- **すべてのプロジェクトで使用可能** — 1 つのプロジェクトで定義された資格情報は、同一マシンの他の InstallAnywhere プロジェクトでも使用できます。
- **ソース コントロールに格納** — ビルド時に資格情報が適切に取得されるように、ソース コントロール システムにも格納されます。

新しい InstallAnywhere のライセンス取得方法と要件について

InstallAnywhere では、次の 2 つの異なるライセンス モデルが提供されています：

- **ノードロック型ライセンス** — このライセンス モデルでは、製品のライセンスは、特定のユーザーとマシンに固定されています。このモデルは従来型のオプションで、一番よく購入されています。ライセンス ファイルは、InstallAnywhere がインストールされているマシンのホスト ID (ネットワーク インターフェイス カード Ethernet/MAC アドレス) に基づきます。
- **ネットワーク (同時接続) 型ライセンス** — 複数のユーザー間で InstallAnywhere 製品ライセンスの共有または浮動状態が可能なモデルです。このモデルでは、ライセンス サーバーを自分の環境内でセットアップし、必要なマシンすべてに InstallAnywhere をインストールできます。InstallAnywhere ライセンスは特定のライセンス サーバーに固定されており、それぞれのマシンは、ユーザーが InstallAnywhere を起動した時に、サーバーからライセンスをチェックアウトします。ライセンス サーバーでは、購入されたネットワーク (同時接続) ライセンスの契約内容に基づいて、一度に実行可能な InstallAnywhere のインスタンスの数が管理されます。このモデルの場合、ライセンス ファイルは、ライセンス サーバーのホスト ID に基づきます。



メモ • InstallAnywhere 2011 から、InstallAnywhere のライセンスの設定方法が改訂されました。以前のバージョンの InstallAnywhere では、ノードロック型のライセンスを使用するユーザーは、シリアル番号を入力して製品を登録し、ネットワーク型ライセンスを使用するユーザーは、フレクセラ・ソフトウェア生成されたライセンス ファイルを使用していました。InstallAnywhere 2011 から、両方のライセンスモデルで (ノードロック型とネットワーク (同時接続) 型)、**フレクセラ・ソフトウェアの製品 & ライセンス センター**で生成されたライセンス ファイルが必要になりました。

ライセンス ファイルの取得

購入したノードロック型またはネットワーク (同時接続) 型のライセンスは、**フレクセラ・ソフトウェアの製品 & ライセンス センター** (<https://flexerasoftware.subscribenet.com/>) から、生成 / ダウンロードできます。また、ライセンスの生成履歴を確認することもできます。このサイトの利用方法と、両ライセンス モデルにおけるライセンスの設定方法については、次のページにある「**ライセンスの設定手順**」をご覧ください。

<https://www.flexerasoftware.com/downloads/instructions/productlicensing/ja/default.htm>



メモ・また、フレクセラ・ソフトウェアの Web サイトから、「フレクセラ・ソフトウェアの製品 & ライセンス センター (InstallAnywhere)」をダウンロードすることもできます。

<http://www.flexerasoftware.com/downloads/instructions/productlicensing/en/InstallAnywhereProductLicensing.pdf>

ノードロック ライセンスに関する問題のトラブルシューティング

ノードロック ライセンスを使って InstallAnywhere をインストールするとき、次のような問題が発生することがあります：

- **64 ビット Linux マシンで InstallAnywhere を登録する** — 64 ビット Linux マシンで 64 ビットバージョンの InstallAnywhere のインストールを実行して、正しいライセンス ファイルを指定したにもかかわらず、InstallAnywhere が登録されていませんというエラー メッセージが表示されることがあります。この問題は、ノードロック ライセンスに必要なネイティブ ライブラリがコンパイルされたときの状況、および、異なる Linux オペレーティング システム間の違いが原因によるものです。この問題の決方法については、下記の場所で提供されているナレッジベース記事「Q214129: Unable to License 64-Bit Version of InstallAnywhere 2011 Using a Node-Locked License File on 64-Bit Linux Operating Systems」を参照してください：

<http://kb.flexerasoftware.com/selfservice/microsites/search.do?cmd=displayKC&docType=kc&externalId=Q214129>

- **InstallAnywhere を Linux ベースのシステムにインストールする** — Linux ベースのシステムで InstallAnywhere のインストールを実行したとき、同じ名前のリンクが既に存在していない場合、デフォルト Linux ローダー (/lib/ld-linux.so.2) へのシンボリック リンクの作成が試みられます。この試みが、場合によって、失敗することがあります。この問題の解決方法については、下記場所で提供されているナレッジベース記事「Q209204: Installing InstallAnywhere 2011 on Linux-Based Systems」を参照してください：

<http://kb.flexerasoftware.com/selfservice/microsites/search.do?cmd=displayKC&docType=kc&externalId=Q209204>

InstallAnywhere の評価

InstallAnywhere のライセンスをまだ購入していない場合も、ライセンスの設定をせずに、インストールして、一定の期間、使用することができます。評価モードでは、InstallAnywhere が起動されるたびにライセンス ウィザードが起動され、評価期間の残日数が表示されます。評価期間内にライセンスを設定しなかった場合、InstallAnywhere は評価期間が終了と共に使用できなくなります。ライセンスの設定は、評価期間が終了するしないにかかわらず、いつでも行うことができます。

同時ビルドの制限事項

"ビルドのみ" のノードロック ライセンスで、コマンドライン ビルダー ユーティリティを使って、InstallAnywhere プロジェクトをビルドする時、ビルドの数は最大 5 つまで許可されています。ビルドが開始されると、"トークン" が取得され、ビルドが完了すると自動的に開放されます。

5 つ以上のビルドを同時に試みようとした時、次のエラー メッセージが表示されます：

同時ビルド マネージャー：エラーが発生しました。

理由 = 現在のライセンスで許可されている同時ビルドの最大数を超過しました。
解決方法 = 現在実行されているビルドの 1 つが完了してから、再度実行してください。



重要 •Ctrl+C を押して、ビルドをキャンセルした場合、トークンはすぐに開放されず、12 時間ロックアウトされたままの状態になり、その後、自動的に開放されます。したがって、Ctrl+C を使って、複数のビルドをキャンセルすると、5 つのビルドが同時実行されていない時も、この同時ビルド マネージャー エラーが発生することがあります。

解決された問題

このセクションでは、次のバージョンの InstallAnywhere で解決された問題が説明されています。

- [InstallAnywhere 2012 SP1](#)
- [InstallAnywhere 2012](#)

InstallAnywhere 2012 SP1

このセクションでは、InstallAnywhere 2012 SP1 で解決された問題が説明されています。

受付番号	問題の要約:
IOA-000028365	setProgressStatusText などの setProgress メソッドで、アンインストール実行時の進行状況情報が設定されるようになりました。
IOA-000055389	コマンドライン ビルダーが、build.properties ファイルで指定された特定の Java 仮想マシン (VM) をビルドに取り込む試みを行い、かつ、その VM がビルド時で見つかったとき、ビルド プロセスで、VM がインストーラーに含められます。以前、エラーが発生していましたが、コマンドライン ビルダーによって任意に選択された VM (InstallAnywhere のデフォルト VM ディレクトリ (resource\installer_vms) で見つかった一番最初の有効な VM) が使われていたため、ビルド自体は成功していました。
IOA-000065677	あるパネルが表示される前に、パネルの規則で使用される変数の値が [InstallAnywhere 変数を設定] アクションによって設定され、そのパネルが表示された後、次のパネルが表示される前に、別の [InstallAnywhere 変数を設定] アクションによって値が変更されたときも、[戻る] ボタンが適切に無効状態で表示されるようになりました。以前、同じ状況で、[戻る] ボタンは無効になっていませんでした。またエンドユーザーが [戻る] ボタンをクリックしても反応がありませんでした。
IOA-000066371	エンドユーザーが、新しいバージョン番号がある製品をアップグレードしたとき、Windows ベースのシステムの [プログラムの追加と削除] の製品エトリで、正しいバージョン番号が表示されるようになりました。以前、アップグレード時にバージョン番号が更新されませんでした。

受付番号	問題の要約:
IOA-000066642	Windows システム以外の JVM 仕様ファイルの PLATFORM_HINT セクションで、環境変数が使用できるようになりました。
IOA-000066700	エンドユーザーがパネル間を移動しているとき、[インストール フォルダーを選択] パネルと [ユーザー入力を取得 - 詳細] パネルで、カーソルがみ取り専用の場所に配置されなくなりました。以前、同じ状況で、カーソルが読み取り専用のテキストの横に配置されるという問題が発生していました。
IOA-000068743	JVM 仕様ファイルの PLATFORM_HINT セクションに有効なレジストリ値が含まれていて、かつ、JVM_EXE プロパティ値と組み合わせて、ターゲットシステムで有効な JVM がインストールされる場所のパスが形成されているとき、インストール時に、その JVM が検出され、インストールが正しく起動されるようになりました。以前、インストール時に JVM が見つからなかったため、インストールが起動されませんでした。
IOA-000072308	[エイリアス、リンク、ショートカットを作成] アクションターゲット パスが、1 つ以上のスペース含むショートカットのターゲット フォルダになっているとき、Unix システムで実行されたとき、スペースがアンダースコアで置き換えられなくなりました。
IOA-000072605	ビルドのプロパティ ファイルに、Windows ベースのシステムで、GUI またはコンソール タイプの起動プログラムを使用するかどうかを指定できる WindowsDefaultUI オプションが追加されました。
IOA-000072631	CustomError クラスが UninstallProxy オブジェクトで使えるようになり、アンインストーラーのログ ファイルに追加の詳細をログ記録できるようになりました。
IOA-000072831	インストールが、[Windows インストール起動プログラム] タイプのコンソールが指定されているビルドのプロパティ ファイルを使ってコマンドラインからビルドされ、かつ、このインストールが、Windows のターゲット システムで [コマンド プロンプト] ウィンドウからサイレント モードで実行されたとき、インストールは、インストール プロセスの完了を待機してから、次のプロンプトに移動するようになりました。以前、インストール プロセスは、サイレント インストールがバックグラウンドで開始されると同時に次のプロンプトに移動していました。
IOA-000073548	インストール時に、エンドユーザー側で、ログアウトしてからログインするという手続きなしに、OS X 10.8 Mountain Lion システムのドックで製品アイコンが表示されるようになりました。以前、Dock の既定マジック フォルダが [エイリアス、リンク、ショートカットを作成] アクションのターゲット場所として選択されているときも、また、エンドユーザーが [ショートカットの作成場所] パネルで Dock をエイリアスの作成場所として選択したときも、アイコンは表示されませんでした。

受付番号	問題の要約:
IOA-000073882	インストールがコンソール モードで実行されたとき、いくつかのパネルで、日本語のテキストが正しく表示されていませんでした。
IOA-000073952	Mac OS X 10.8 Mountain Lion システムの Dock アイコンが、アンインストールで適切に削除されるようになりました。以前、疑問符の付いたアイコンがシステムに残っていました。
IOA-000074231	IBM JRE 1.5 SR2 を使用するインストールで、InstallShield MultiPlatform API を読み込むことができるようになりました。
IOA-000074403	インストールがコンソール モードで起動されたとき、そのインストールで、英語とフランス語のように複数の言語がサポートされている場合、[語の選択] コンソールでサポートされている言語を任意に選択して、その言語がインストールの残りのプロセスで使われるようになりました。以、別の言語が選択されたときも、常に英語がコンソール用テキストに使用されていました。
IOA-000075901	仮想プライベート ネットワークから、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client を使って、IBM Virtual Loaner Program システムに接続したとき、InstallAnywhere の IDE が不安定になる問題は今回解決されました。

InstallAnywhere 2012

このセクションは、InstallAnywhere 2012 で解決された問題の一覧です：

受付番号	問題の要約:
IOA-000053505	Windows Vista で、インストール先に Unicode 文字が含まれていた場合、パスがレジストリまたはショートカットに書き込まれず、アンインストールが行われませんでした。
IOA-000056103	プロジェクトが Windows で作成され、Linux でビルドされたとき、外部リソース バンドルがインストーラーに組み込まれませんでした。
IOA-000057509	[インストール前] タスクで、次を使用するカスタム コード アクションによって： ProductRegistryService.getNewestProduct(sc) [Pre-Install] でキャンセルが実行されたとき、次のファイルが生成されるという問題が発生していました。 \$USER_INSTALL_DIR\$PRODUCT_NAME\$.installation\com.zerog.registry.xml
IOA-000063596	Windows で、[インストール フォルダーを選択] パネルを使って中国語を含むディレクトリを参照したとき、その文字が ? で表示され、インストールを続行できませんでした。

受付番号	問題の要約:
IOA-000064629	[インストール前] 段階でインストールがキャンセルされたとき、ログ ファイルが常にデスクトップに生成されていました。
IOA-000065438	PPC Linux で、IBM JVM 1.6 build pxp6460sr9fp2-20110625_01(SR9 FP2) を使用するプロジェクトに対して、コマンドライン ビルドが試みられたとき、次のエラー メッセージと共に、ビルドが失敗していました; IllegalStateException: Message digest cannot be cloned
IOA-000065589	致命的な除外によってインストーラーがロールバックされたとき、インストーラーの終了コードがゼロ (0) に設定されていました。
IOA-000066501	日本語のテキスト折り返しラベルに関する問題。
IOA-000066678	Linux で非ルート ユーザーとして、Project Automation Framework を通してプロジェクトのロードおよび保存ができませんでした。
IOA-000066886	[アンインストール] タスクのカテゴリーが、常に英語で表示されていました。
IOA-000068361	インターフェイスとインストーラーの [お待ちください] パネルで、テキスト領域が適切に表示されていませんでした。
IOA-000068611	[インストール前の要約] パネルで、ディスク領域情報をギガバイトで表示するように指定したとき、ギガバイトが整数で表示されていました。
IOA-000069329	[ディスク領域が不足しています] パネルで、予期しないライン スイッチが発生していました。
IOA-000069446	Windows 8 で、実行可能ファイルによるインストールが失敗していました (「スタック トレース ZeroGu3 Windows DLL をロードできませんでした」)。
IOA-000069534	ロケールが pt_BR、zh_CN、または zh_TW に設定されたマシンで [ロケールの選択] パネルが表示されたとき、それらのロケールが自動選択されていませんでした。
IOA-000069646	製品名のビルド時の変数が、英語以外のロケールで解決されませんでした。
IOA-000069778	DISPLAY に空の値が設定され、プロジェクトに、 sun.awt.X11GraphicsEnvironment に NoClassDefFoundError が設定されている [ユーザー入力を取得 - 詳細] が含まれているとき、ビルドが失敗していました。
IOA-000070070	起動画面で、チェコ語がデフォルト言語として表示されていませんでした。
IOA-000071069	[システム環境変数を設定] アクションのアンインストールが試みられたとき、アンインストールがハングする問題が発生していました。
IOA-000071966	f スイッチに値なしでインストーラーをサイレントで実行したとき、 ArrayIndexOutOfBoundsException がスローされていました。

受付番号	問題の要約:
IOA-000072052	インストールが完了したあと、環境変数が表示されませんでした。
IOA-000072612	DISPLAY に間違った値が設定された状態で、インストーラーがサイレントで実行されたとき、NoClassDefFoundError がスローされ、一時ディレクトリがクリーンアップされないという問題が発生していました。
IOA-000073465	[パネル:エイリアス、リンク、ショートカット フォルダーを選択:ショートカット フォルダーを選択]のエラー メッセージをローカライズできませんでした。
IOC-000079130	ディスク空き容量が 21 TB 前後のとき、[インストール前の要約] パネルで正しくない情報が表示されていました。
IOC-000080085	再インストールが何回も繰り返されると、.com.zerog.registry.xml ファイルのサイズが大きくなりすぎ、OutOfMemoryError が発生し、インストールが失敗していました。

InstallAnywhere のエディション

InstallAnywhere 2012 には、3 種類のエディションがあります。各エディションは、それぞれ異なるタイプの顧客の製品配置ニーズに応えるように設計されています：

- [InstallAnywhere Enterprise Edition](#)
- [InstallAnywhere Enterprise Edition with Cloud Pack](#)
- [InstallAnywhere Standard Edition](#)

このドキュメントでは、Enterprise Edition with Cloud Pack で提供されている全機能について説明します。マニュアル内でも一部の機能の違いは明記されていますが、各エディションで利用できる機能の詳細については、InstallAnywhere の Web サイトを参照してください。

3 つのエディションはすべて同一ビルドからインストールできます。購入済みの InstallAnywhere のエディションは、提供されたライセンス情報によってアクティベートされます。



メモ・評価モードでトライアル ライセンスを使用する場合、*InstallAnywhere Enterprise With Cloud Pack* エディションが評価用に有効になります。

InstallAnywhere Enterprise Edition

Enterprise Edition には、強力な構成オプション、ユーザー インタラクション、およびクライアント / サーバー機能が搭載されています。このエディションを使用すると、複雑なインストールを簡素化できるだけでなく、開発時に包括的なカスタマイズを実現することができます。Enterprise Edition は、英語版と日本語版があります。各 Enterprise Edition には、それぞれ国際化サポートが備わっており、31 種類の言語でインストーラーを作成できます。

InstallAnywhere Enterprise Edition with Cloud Pack

Enterprise Edition で提供されている強力な機能には、Amazon EC2 や VMware vSphere などのクラウド プラットフォーム用に仮想アプライアンスをビルドするための追加機能が含まれています。

InstallAnywhere Standard Edition

Standard Edition には、同じクラスの他の製品に比べて多くの機能が備わっており、カスタマイズも柔軟に行うことができます。このエディションはデスクトップ アプリケーションの配置に理想的であり、9 種類の言語の国際化サポートを備えています。

システム要件

InstallAnywhere 2012 のシステム要件は以下のとおりです：

- [InstallAnywhere](#) を実行するシステム (オーサリング環境)
- ターゲット システム (インストーラー環境)
- 仮想アプライアンス
- サポート対象の Java VM



重要 •InstallAnywhere 2012 では、すべての JVM の JRE 1.4 は、インストーラーのランタイム環境で使用できません。



重要 •InstallAnywhere 2012 では、InstallAnywhere アドバンスド デザイナーが、AIX と HP-UX プラットフォームで使用できなくなりました。これらのプラットフォームは、引き続きサポートされています。





メモ •InstallAnywhere では、[システム要件] セクションに表示されているアーキテクチャ/ プラットフォームのみ、正式にサポートされています。

InstallAnywhere を実行するシステム (オーサリング環境)

InstallAnywhere オーサリング環境を実行するシステムにおける InstallAnywhere 2012 のシステム要件は以下の通りです：

項目	説明
RAM	256 MB の空き容量
色	8 ビット以上の表示色 (256 色)
解像度	1024 x 768 以上の解像度
オペレーティング システム	InstallAnywhere は、以下のオペレーティング システムで実行できます。お使いのオペレーティング システムが最新のパッチおよびサービス パックで完全に更新されており、かつ最新バージョンであることを確認してください：

項目	説明	
オペレーティング システム (続く)	Windows	<ul style="list-style-type: none"> Windows 8 (x86 ビット x64) Windows Server 2012 (x64) Windows 7 (x86 ビット x64) Windows Server 2008 R2 (x64) Windows Vista Windows XP Windows 2000
	Macintosh	Mac OS X 10.4、10.5、10.6 (Java 1.6+ あり)、10.7 (Java 1.6+ あり)、および 10.8 (Java 1.6+ あり)
	Linux	<ul style="list-style-type: none"> Red Hat Enterprise Linux 4、5、および 6 (x86 および x64) SUSE Linux 9、10 (x86) SUSE Linux 11.2、11.3、11.4、12.1 (x86 および x64)、および 12.2 (x86 および x64) Linux PPC 64 ビット (ビルド時のみ) (JRE 1.6 でのみ) Ubuntu 10.10、11.10、12.04 (x86 および x64)、および 12.10 (x86 および x64) Fedora 14、15、16 および 17 <div>  <p>メモ • InstallAnywhere を Linux システムにインストールした時、デフォルトの Linux ローダー (/lib/ld-linux.so.2) と同じ名前のリンクが既に存在した場合、シンボリック リンクが作成されます。シンボリック リンクは、ホスト ID が [ホスト ID] ダイアログで示されるために必要で、ノードロック型ライセンスが正しく機能するためにも必要です。リンクは、Linux Standard Base (LSB) 3 に対応しているシステムに存在していますが、対応していないシステムには存在していないこともあります。詳細については、ナレッジベース記事 Q209204 を参照してください。</p> </div>
	Solaris	Solaris 9、10、および 11 (SPARC)
		<div>  <p>メモ • InstallAnywhere Enterprise Edition の日本語ローカライズ版は、Windows プラットフォームのみで提供されています。インストーラーは、任意のプラットフォームからビルドして、すべてのプラットフォームおよび言語に対応させることができます。Enterprise Edition では、31 ヶ国語のローカリゼーションが提供されています。Standard Edition では、9 ヶ国語のローカリゼーションが提供されています。</p> </div>



重要 • InstallAnywhere 2012 では、InstallAnywhere アドバンスド デザイナーが、AIX と HP-UX プラットフォームで使用できなくなりました。これらのプラットフォームは、引き続きサポートされています。

ターゲット システム (インストーラー環境)

InstallAnywhere インストールを実行するシステムにおける InstallAnywhere 2012 のシステム要件は以下の通りです :

項目	説明
RAM	64 MB の空き容量
色	8 ビット以上の表示色 (256 色)
解像度	640 x 480 以上の解像度
オペレーティング システム	<p>インストーラーは、オペレーティング システムが Java 1.6 以降をサポートしていることを条件に、バージョンに関わらず、以下のすべてのオペレーティング システムで実行できます。ただし、Mac OS X では、Java 7 はサポートされていませんので注意が必要です。</p> <p> メモ • InstallAnywhere インストーラーは、明記されていない限り、ベータ版または初期アクセス版ではサポートされていません。</p> <p> 重要 • InstallAnywhere 2012 では、すべての JVM の JRE 1.4 は、インストーラーのランタイム環境で使用できません。</p>
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Windows 8 (x86 ビット x64)• Windows Server 2012 (x64)• Windows 7 (x86 ビット x64)• Windows Server 2008 R2 (x64)• Windows Server 2008 (x86 および x64)• Windows Vista (x86 と x64)• Windows XP (x86、x64、Itanium 2、および AMD-64)• Windows Server 2003 (x86、x64、Itanium 2、および AMD-64)• Windows 2000 および NT (x86)
Macintosh	Mac OS X 10.2、10.3、10.4、10.5、10.6、10.7 (Lion)、および 10.8 (Mountain Lion)

項目	説明
オペレーティング システム (続く)	Linux <ul style="list-style-type: none"> Red Hat Enterprise Linux 4、5 (x86、x64、Itanium 2、および AMD-64) Red Hat Enterprise Linux 6.2 (x86 および x64) および 6.3 (x86 および x64) SUSE Linux 9、10、11、12.1 (x86 および x64)、および 12.2 (x86 および x64) zSeries Linux Linux PPC (x64) Ubuntu 9.10、10.10、11.4、11.10、12.04 (x86 および x64)、および 12.10 (x86 および x64) Fedora 13、14、15、16、および 17
	Solaris <ul style="list-style-type: none"> Solaris 11 (x86 および SPARC) Solaris 9、10 (x86、SPARC、および AMD-64)
	HP-UX HP-UX 11i (Itanium 2 と PA-RISC)
	AIX AIX 5.2、5.3、6.1 および 7.1 (Power/PowerPC)
	IBM <ul style="list-style-type: none"> System i の i5/OS (OS/400) - V5R3 および V5R4 (Enterprise Edition のみ)、IBM i 6.1、および IBM i 7.1 z/OS
	その他 <ul style="list-style-type: none"> FreeBSD 他の Linux および Unix オペレーティング システム (POSIX 準拠シェルが必要)

仮想アプライアンス


InstallAnywhere 2012 から、VMware vSphere 5 と Amazon EC2 のハイパーバイザーで実行できる仮想アプライアンスの作成がサポートされています。

- [仮想アプライアンスのビルドと自動配置におけるシステム要件](#)
- [VM テンプレートのビルドにおけるシステム要件](#)

仮想アプライアンスのビルドと自動配置におけるシステム要件

次のテーブルは、仮想アプライアンスのビルドと自動配置におけるシステム要件です：

ハイパーバイザー	カテゴリ	要件
VMware vSphere 5 / vCenter	VMware vSphere 5 資格情報	VMware vSphere 5 サーバーの資格情報。
	VMware vCenter の資格情報	使用中の VMware vSphere 5 サーバーが VMware vCenter 5 サーバーによって管理されている場合、VMware vCenter サーバーの資格情報も必要になります。  メモ ・VMware vSphere 5 の仮想アプライアンスは、次のプラットフォームに配置できます： <ul style="list-style-type: none">• ライセンスのある VMware vSphere 5 サーバー (スタンドアロン)• ライセンスのある VMware vCenter 5 サーバーで運用されているライセンスのある VMware vSphere 5 サーバー
	ホスト名	仮想アプライアンスのオペレーティング システムに最も類似する物理的 / 仮想マシンの資格情報。
	VM テンプレート	InstallAnywhere で作成された、次のいずれかのオペレーティング システムの VM テンプレート： <ul style="list-style-type: none">• Ubuntu 11.10 (Oneiric Ocelot) 32 ビット• Ubuntu 12.04 (Precise Pangolin) 32 ビット• CentOS 6.2 と 6.3 32 ビット VM テンプレートのルート ユーザー資格情報も必要です。  メモ ・「 VM テンプレートのビルドにおけるシステム要件 」を参照してください。

ハイパーバイザー	カテゴリ	要件
Amazon EC2	Amazon EC2 の資格情報	Amazon EC2 アカウントに関連付けられているアカウント番号、アクセス キー、秘密鍵、x.509 証明書、私有鍵。
	ホスト名	仮想アプライアンスのオペレーティング システムに最も類似する物理的 / 仮想マシンの資格情報。
	VM テンプレート	<p>InstallAnywhere で作成された、次のいずれかのオペレーティング システムの VM テンプレート：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Ubuntu 11.10 (Oneiric Ocelot) 32 ビット • Ubuntu 12.04 (Precise Pangolin) 32 ビット <p>VM テンプレートのルート ユーザー資格情報も必要です。</p>  <p>メモ・「VM テンプレートのビルドにおけるシステム要件」を参照してください。</p>

オペレーティング システムの要件

いずれかのタイプの仮想アプリケーションで、インストールに指定されたオペレーティング システムパッケージがある場合、次のいずれかが必になります；

- パッケージをダウンロードしてインストールするためのインターネット接続。
- インターネットが利用できない場合、ローカル リポジトリに、Ubuntu / CentOS パッケージのコピーを作成し、[Build Appliances] タスクにある [VM の構成] タブの [リポジトリの設定] タブで、その詳細を入力する必要があります。

VM テンプレートのビルドにおけるシステム要件

次のテーブルは、VM テンプレートのビルドにおけるシステム要件です：

ハイパーバイザー	オペレーティング システム
VMware vSphere 5 / vCenter	<ul style="list-style-type: none">• VMware vSphere 5 サーバーの資格情報 — VM の作成、イメージの電源オンとオフ、データストア間のコピー操作、インベントリ操作の実行に必要な資格情報。• VMware vCenter サーバーの資格情報 — VMware vCenter Server を指定した場合、その VMware vCenter サーバーによって管理されている VMware vSphere 5 ホストの資格情報も必要です。• ホスト マシン — 仮想アプライアンスのオペレーティング システムに最も類似する物理的 / 仮想マシンの資格情報。• オペレーティング システム ISO ファイル — オペレーティング システムのインストールを含む ISO ファイル。• VMware ツール — ダウンロードされたバージョンの互換性のある VMware ツール パッケージの場所 (*.tar.gz フォーマット)。
Amazon EC2	<ul style="list-style-type: none">• ホスト マシン — 仮想アプライアンスのオペレーティング システムに最も類似する物理的 / 仮想マシンの資格情報。• インターネットの接続 — オプションで、OS ベンダーによって提供されたクラウド イメージを使って VM テンプレートを作成する場合、有効なインターネットの接続も必要です。



メモ • VM テンプレートのビルド時、パッケージのアップデートが提供されている場合、それをインストールできるように、マシンがインターネットに接されていることが推奨されます。

サポート対象の Java VM

InstallAnywhere 2012 は、以下の Java 仮想マシンをサポートします：

製造元	バージョン
Sun:	1.5.x、1.6.x、1.7.x
IBM	1.5.x、1.6.x、1.7.x
Apple	1.5.x、1.6.x
HP	1.5.x、1.6.x
Oracle	1.7.x

InstallAnywhere インストーラーは、Java 1.7 VM パックをインストールします。また、任意の Java VM をインストーラーにバンドルして、ターゲットシステムでインストーラーとアプリケーションの最低要件を確実に満たすことができます。追加の VM パックをダウンロードするには、<http://www.flexerasoftware.com/installanywhere/utilities> へアクセスして、[VM Packs] を選択してください。



メモ • InstallAnywhere インストーラーは、Java のベータ版または初期アクセス版ではサポートされていません。

既知の問題

既知の問題の全リストは、ナレッジベースの記事 [Q209992](#) を参照してください。

フィードバックの送信

InstallAnywhere で開発者の方々のニーズに応える機能を常に提供していくため、ユーザーの方々からのフィードバックは非常に貴重です。InstallAnywhere の多くの機能は、InstallAnywhere 開発者コミュニティでユーザーの方々と当社のエンジニア チームおよびサポート チームの間で話し合われたフィードバックと提案が直接貢献しています。フィードバックを送るには、「[製品フィードバック](#)」をご覧ください。